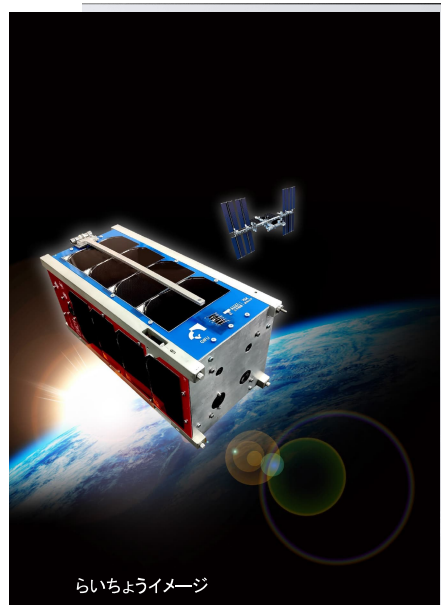


「高大連携教育 『ぎふハイスクールサット』の取組」



宇宙研究利用推進センター(C-SRUP)

センター長 宮坂 武志



らいちようイメージ

宇宙人材育成
高大連携事業



GHS-01

岐阜大学管理棟

宇宙研究利用推進センターの活動



高大連携による宇宙人材育成プログラム



基盤:宇宙工学講座

リモート講義により宇宙工学に関する幅広い知識を習得

- ・9回の講義
- ・宇宙施設見学ツアー
- ・グループワーク



演習:缶サット・モデルロケット

空き缶サイズの模擬衛星を作成し衛星ミッションの基本を習得する

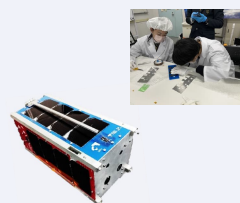
- ・衛星・ロケット講習会
- ・缶サット岐阜大会



実践:ぎふハイスクールサット GHS

超小型の「本物の」衛星製作し実際に地球周回軌道に投入し、演習を行う

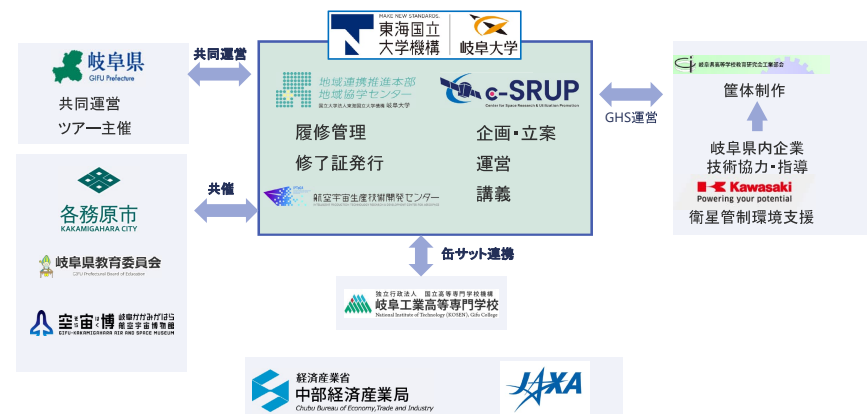
- ・GHS1号機 衛星製作
- ・衛星運用
- ・衛星データによる演習



宇宙人材育成プロジェクト 実施・協力体制



産官学連携 宇宙人材育成プロジェクト



安全で安心な社会生活を担保するインフラの劣化が問題になっている中で、インフラの整備・維持管理の担い手が不足している。

建設業、特に土木事業はほぼ公共事業であるため、発注者（行政）と受注者（民間：建設コンサル・建設業）の対等な対話が品質確保に重要である。

- ME養成講座は、行政と民間双方の技術者が「共通の知識と技術」を保有し、よりよいものづくりのために対話しながら成長する「インフラ整備と維持管理の総合技術者」を育成することを目的としている。

ME養成講座（インフラマネジメント技術研究センター）は、大学での学びだけでなく、修了後のフォローアップにも貢献している。

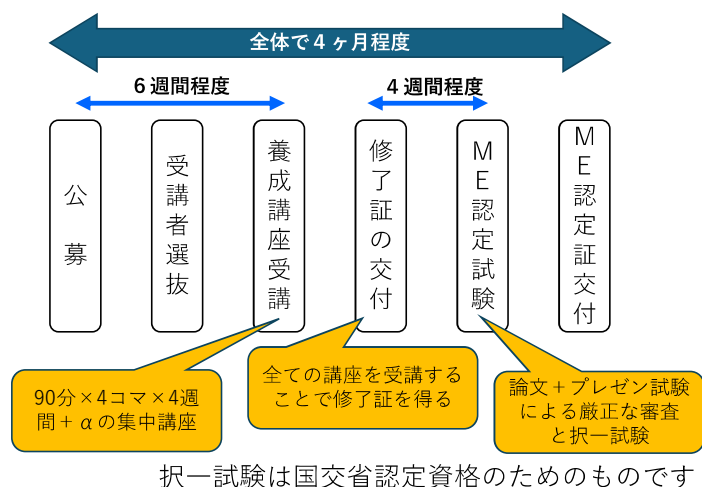
ME 養成講座の特徴

- ・ 80コマ（1コマ90分）＋ α の集中講義
 - －アセットマネジメント基礎科目（座学）
 - －社会基盤設計実務（演習主体）
 - －点検・施工・維持管理実習（フィールド実習主体）
- ・ 社会人専用の短期集中講座（4週間）
- ・ 自治体等土木職員と建設関連業界技術者が同じ講義と一緒に受講する
- ・ 全国の著名な専門家による最高レベルの講義
 - －外部講師の招聘（外部70人　うちME41人　学内13人）
- ・ 受講資格を設定（建設系大学を卒業（高卒の場合などは審査））
- ・ 受講資格を設定（民間3年以上、行政2年以上の主体的な業務経験が必要）
- ・ すべての講義を受講してはじめて養成講座修了証が交付され、ME認定試験の受験資格を得る

- ・ 本質的な知識と技術の確認
- ・ 共通の高度な技術の共有
- ・ 技術と情報の細分化および溢れる情報に対応

受講者の達成度を厳しく確認！

ME 養成講座のスケジュール

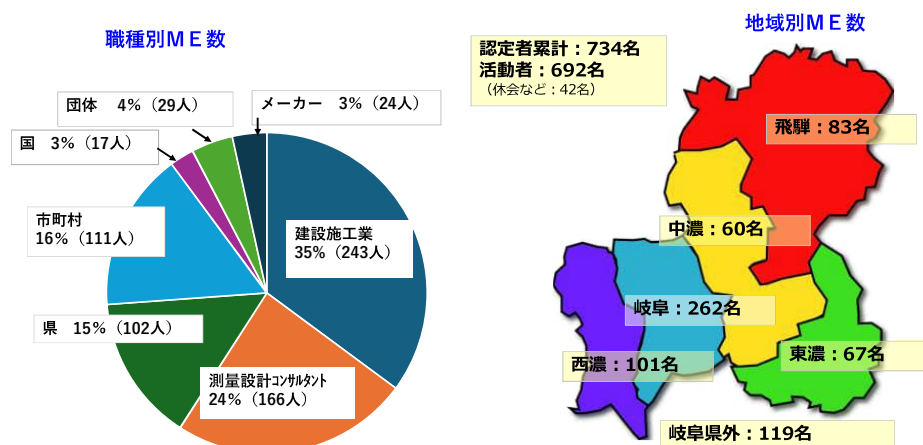


ME養成講座に関する履歴の一部

- 2008
 - ・ 科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」採択
 - ・ 第1期 ME養成講座開始
 - ・ 土木研究所（CAESAR）/岐阜大学社会資本アセットマネジメント技術研究センター/長崎大学工学部インフラ長寿命化センターによる「社会基盤のメンテナンスに係る地域人材育成に関する協定」締結その後中部管内の国土交通省事務所との「連携協力に関する協定」
- 2013
 - ・ 科学技術戦略推進費「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」採択
- 2014
 - ・ 工学部附属インフラマネジメント技術研究センターに改称
 - ・ 岐阜大学大学院履修証明プログラム登録、科目等履修生制度に対応
- 2016
 - ・ ME養成講座の有料化（250,000円）、2020から280,000円
 - ・ 国土交通省「民間技術者資格制度（橋梁（鋼橋・コンクリート）トンネル）」登録
 - ・ 文部科学大臣「職業実践力育成プログラム（BP）」認定
 - ・ 厚生労働省「専門実践教育訓練講座」認定
- 2020
 - ・ 国土交通省「民間技術者資格制度（点検資格、診断資格：舗装・道路土工構造物（土工））」追加登録

ME の認定状況

令和8年1月



2008年度から2025年度までの19年（31期）の実績

19年継続できた理由

- ・ 受講者のレベル設定
 - 育成する人材像（ME）を設計し、受講資格を設定
 - 建設系大学を卒業（高卒の場合などは審査）
 - 民間3年以上、行政2年以上の主体的な業務経験が必要
- ・ 発注者と受注者が同じ講義を同時に受講
 - 受講中は、立場に関わらずいち受講者として勉強に集中
- ・ 受講に関するルール
 - 全講義の受講が必須、受講期間中業務禁止（業務として勉強に集中）
- ・ 窓口の一貫性
 - ME 養成講座に関連する連絡窓口は一つ（情報の集約）
- ・ 有料化による自立運営
 - ME 養成講座に関連する連絡窓口は一つ（情報の集約）

19年継続できた理由（つづき）

- MEの会 → ME 認定者の同窓会組織による技術力向上の場
ME 認定者が継続して技術向上と知見を集積する学びの場
産学官を横断した強力な人的ネットワーク（課題や情報の共有）
地域に密着した課題解決に貢献（地域住民や社会との協働・連携）
大学はフォローアップに協力
- 他地域（他大学）との連携
インフラ人材育成連携コンソーシアムを構築
同様の人材育成を実施している機関との情報共有を通じた人材育成
の仕組み等の高度化
「岐阜-長崎-宮崎-愛媛-山口-新潟-福岡」大学、「舞鶴-香川」高専
他地域の認定技術者同士も連携
- インセンティブ → 次ページ

9

ME 養成の波及効果

- 受発注の関係を越え、コンプライアンスを遵守して技術交流
- ME 認定者のネットワーク（ME の会）構築により、会社や組織の垣根を越えた技術者同士の議論に基づく課題解決や情報交換 → 技術力向上
- 講座で学んだ知識により、ME が**斜面崩壊の兆候を発見して未然に被害防止**
- ME 同士が協力して、**災害復旧現場で迅速な復旧に貢献**
- ME 講座の枠組みを他地域に広めるとともに、インフラ人材育成連携コンソーシアムを構築（長崎・宮崎・福岡・愛媛・山口・新潟・舞鶴・香川）
- 2009年度全建賞を受賞：全日本建設技術協会
- 2014年度工学教育賞（業績部門）を受賞
- 2016年度インフラメンテナンス大賞特別賞（文部科学省）受賞
- 2020年度地盤工学会功績賞を受賞
- ME 認定者は大学を身近に感じ、技術相談や共同研究を持ち込み易い雰囲気
- 内閣府SIP事業：第1期と第3期に採択
- ME 認定者はME 養成講座や大学院の非常勤講師として活躍
- ME 養成講座とME の会の取組が「人の群マネ」として評価されている

11

資格としてのME の優位性（インセンティブ）

- 岐阜県建設工事総合評価落札方式において技術士と同等に加点
- ME を活用した小規模橋梁点検・維持修繕業務委託工事（岐阜県）
ME の高度な技術力を活用し、道路施設の点検から診断、対策工法の提案、補修に至るまでの小規模修繕を包括的に行うことで、的確な補修の実施と工期の短縮を図る
- ME を活用した道路点検・維持修繕業務委託工事（岐阜県）
道路維持修繕業務委託（全面委託）について、**ME の高度な技術力を活用**し、道路の定期点検パトロールの実施から対策工法等の提案及び補修に至るまでを包括的にを行い、道路施設の維持・修繕作業を的確及び迅速に行う
- 国土交通省、技術者資格（点検資格および診断資格の計10分野）
橋梁（鋼橋）、橋梁（コンクリート橋）、トンネル、
舗装、道路土工構造物（土工）

10

ME 養成講座に関する悩み（課題）など

- ME 養成講座は、資格取得のためだけの場ではない
・資格を取得することが目的になっていないか？
- 業務受注のための資格保有者数が満たされていれば、より多くのよい技術者を必要としない？
- よい仕事＝仕様にある仕事をミスなくこなすこと、という考え方のもと、余分に努力する必要があると思っていない？
- 行政機関には、インセンティブがない（個人にもない）
- よい仕事をすれば、高く評価される（儲かる）から、きちんと知識と技術を身につける必要がある、という構図になりづらい公共事業？
- あの人に聞いたらこの案件は解決する（可能性が高い）、という感じの技術者がいて、その案件を適正にまとめる能力を持つ技術者がいるとよい。事業を俯瞰できる総合技術者が必要だが、細分化が進んでいる。

12

ME 養成講座に関する悩み（課題）などのつづき

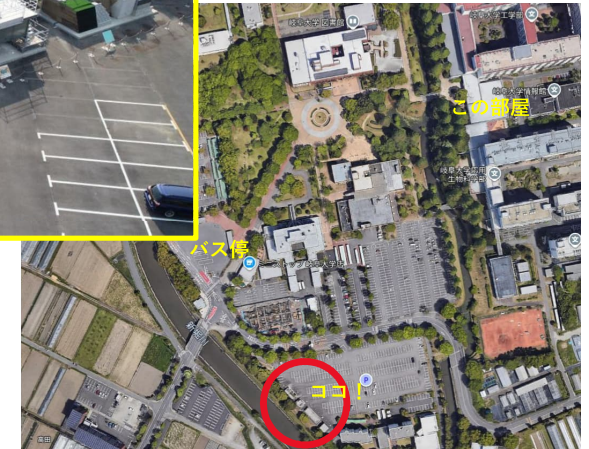
- 法に則った仕事と金の流れが分かったうえで課題解決に導く人が必要
 - ・ 知恵が足らなければ、仲間の力を借りればよい
 - ・ 学識者・有識者の意見を・・・というのを逃げ場にしていないか？
- ME 養成講座を通じて,
 - ・ 考える（悩む）ことを楽しめるきっかけを作りたい
 - ・ 総合的にインフラを活用する考え方を常に進化（深化）させられるような技術者を輩出する場でありたい
 - ・ 建設業に関連するすべての技術者が社会的に高く評価される方法？
- 人材育成には、時間も手間もかかる（**予算と人員が必要**）
 - ・ インフラ（ハード）は短期間に構築できない
 - ・ 大切なことに時間と手間をかける環境が必要

13

土木構造物のしくみと構造を学ぶ【インフラミュージアム】

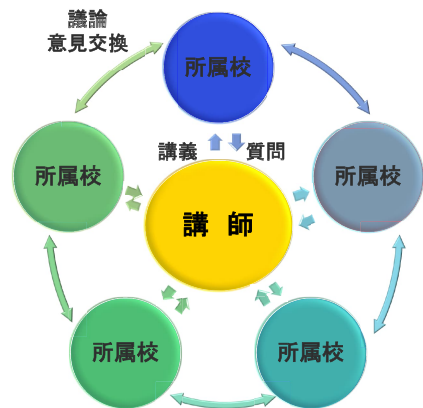


インフラを学ぶ教科書を
キャンパス内に構築しました



終わり

高大連携事業 宇宙工学講座



自分の学校で受講できる

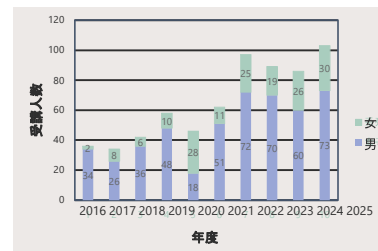


9回実施：2/3以上の聴講・レポート提出で修了証授与

5

宇宙工学講座は2016年度の開始から11年目を迎えます

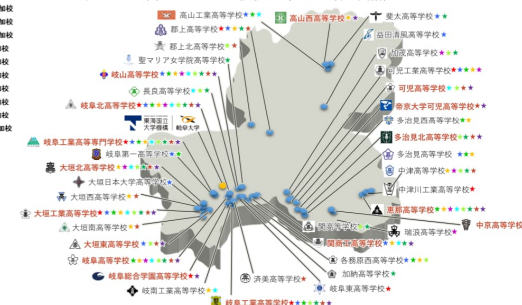
受講生数の推移



受講生が650人を超えました

県内の幅広い地域から受講

第1～10回：のべ147校参加（654名が受講）



開講式@岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

特別講演

年度	講演題目	講演者
2017	川崎重工業(株)航空宇宙カンパニーが取り組む宇宙開発	川崎重工業 副部長 久保田氏
2018	宇宙への挑戦	国立天文台チリ観測所 所長 坂本氏
2019	日本の製造業の将来 ～「空飛ぶクルマ」を目指して～	経済産業省 室長 三上氏
2022	宇宙科学の最前線	JAXA 清水氏
2023	宇宙を仕事に。人類最後のフロンティアへの挑戦	(株)BULL CEO Founder 宇藤氏
2024	火星衛星探査計画MMX	JAXA 川勝教授
2025	NASA in Japan	NASAアジア担当代表 Andy Masciola氏
2026	未来をつくる宇宙エンジニアの仕事 ～夢を形にする技術と挑戦～	三菱重工業 次長 石川氏



7

閉講式@岐阜大学講堂

特別講演

年度	講演題目	講演者
2017	大学発超小型衛星による新しい宇宙開発への挑戦	東京大学 中須賀教授
2018	宇宙旅行は夢じゃない	九州大学 米本教授
2019	イベント・ホライズン・テレスコープで探る巨大ブラックホールの影	広島大学 笹田氏
2020	リモート見学	JAXA 筑波宇宙センター 久本氏 野辺山宇宙電波観測所 林氏
2022	宇宙空間からの天体観測 ～最近の話題と将来への展望～	JAXA 宇宙科学研究所 山口准教授
2023	電波望遠鏡で観測する地球の大気環境	名古屋大学宇宙地球環境研究所 水野 教授
2024	オーロラの科学	名古屋大学宇宙地球環境研究所 塩川教授
2025	激しく活動する太陽	名古屋大学宇宙地球環境研究所 増田准教授

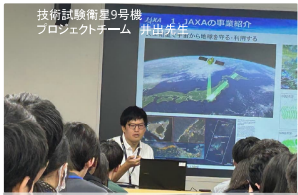


8

見学ツアー JAXA筑波宇宙センター + 1ヶ所



JAXA筑波宇宙センター



JAXA宇宙科学研究所



東京大学本郷キャンパス



野辺山宇宙電波観測所



X-NIHONBASHIにて宙女とセミナー



代々木で卒業生とセミナー



9

「ぎふハイスクールサット」プロジェクト キックオフ 2022年5月



初期メンバー 岐阜県内工業高校4校
岐阜工業高校、可児工業高校
大垣工業高校、岐南工業高校



小惑星探査機「はやぶさ2」津田プロジェクトマネージャーからのアドバイス

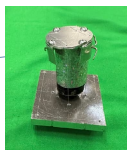
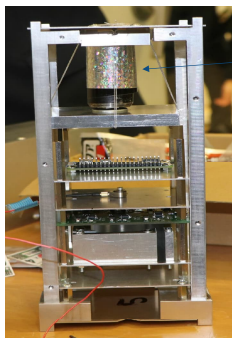


グループワーク

試作機(BBM)の製作・検討



筐体部分の設計・製作: 主に岐阜工業高校が担当



進展ブーム

カメラを取りつける
ことにより「自撮り」
ができる

地球の重心を向く

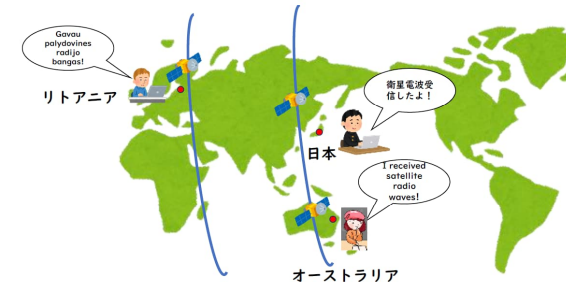


GHS1号機 ミッション 受信情報を使って海外の高校生と演習



高校生国際交流人工衛星電波受信プロジェクト

ミッション 人工衛星は地球をどのように動いているか。みんなで考えてみよう
既存の人工衛星の電波を受信して、その人工衛星の軌道計算をしよう!!



同じ人工衛星の電波を、それぞれの国で受信した時間と方位を報告し合うことで、人工衛星が地球をどのように動いているかを知ることができる。
リアルタイムではなく、メール等で情報共有を行う。

人工衛星は、
地球を約90分で一周する。
1日に電波を受信できる時間は、
5~15分程度
衛星の動きは、いつも同じでなく
毎日、良好に受信できるとは限ら
ない

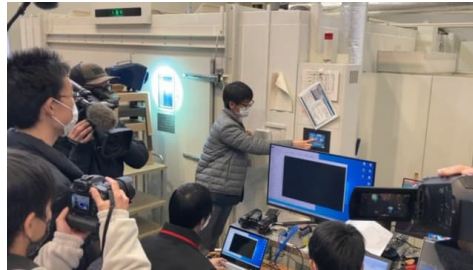
機能試験 恒温槽試験



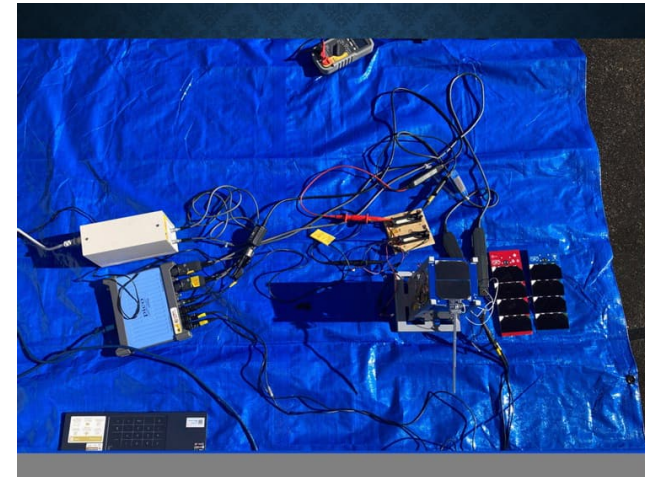
- ・宇宙の厳しい温度環境を模擬した試験
- ・低温と高温の中でも衛星が動作できるかどうかを確認



試験中に遠隔操作で
撮影した写真



機能試験 充放電試験

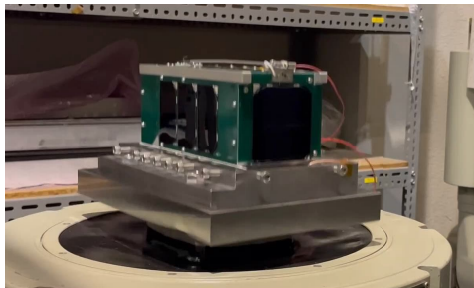


14

安全審査 振動試験



- ・打ち上げ時のロケットの振動を地上で模擬した試験
- ・振動による負荷がかかっても、衛星が耐えられるかどうかを確認

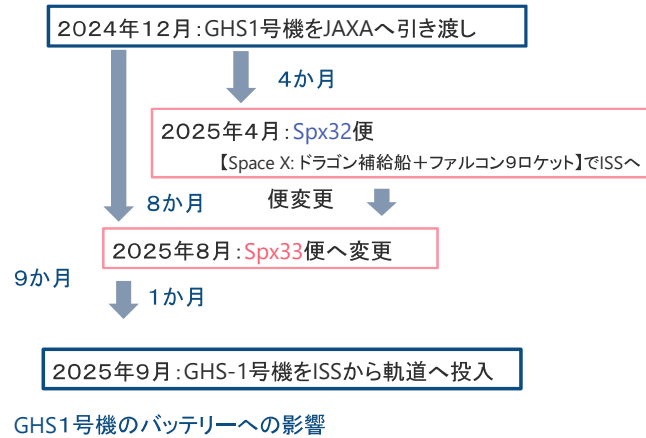


プログラムの最終確認



16

打ち上げの延期



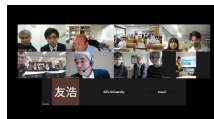
17

衛星管制機器の整備



18

電波受信ミーティング

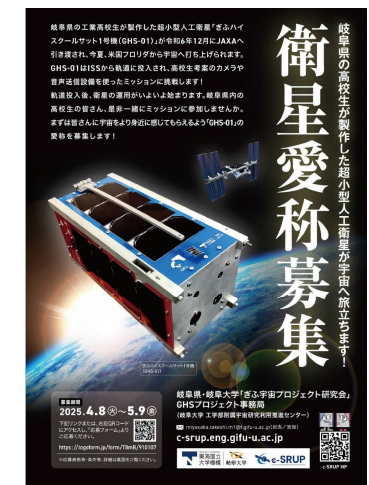
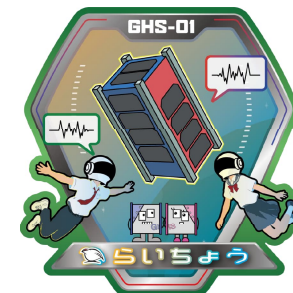


19

GHS1号機: 愛称の募集

GHS1号機の名を岐阜県内の高校生に募集

審査の結果「らいちょう」に決定



20

2025年8月24日 ついに打ち上げへ～ISSへ



主催：岐阜大学工学部附属 宇宙研究利用推進センター

YouTubeライブ 配信あり！

ぎふハイスクールサット

超小型人工衛星「らいちょう」
打ち上げ応援イベント

みんなで「らいちょう」の宇宙への旅立ちを応援しよう！

2025
8/24(日)
14:50・16:20

会場アクセス情報

QRコード

会場アクセス情報

ぎふハイスクールサット1号機 (HIS-01)
「らいちょう」

8/24(日) 15:45 (日本時間)
Falcon 9(SpaceX)により
アメリカから打ち上げ！

【イベント内容】
1. 「らいちょう」の紹介
2. Falcon 9の打ち上げプロセス紹介
3. 打ち上げ中継
4. 高校生による「らいちょう」の
ミッション紹介

【今後の予定】
9月に国際宇宙ステーション(ISS)・日本実験棟
(きぼう)から宇宙飛行士によって放出されます。
放出後にもイベントを開催します。
イベント情報は宇宙研究利用推進センターから
お知らせします。



21

2025年9月19日 ISSから軌道への放出



主催：岐阜県、岐阜大学工学部附属 宇宙研究利用推進センター

YouTubeライブ 配信あり！

ぎふハイスクールサット

超小型人工衛星「らいちょう」
放出ライブビューイング

「らいちょう」、宇宙へはばたけ！

2025
9/19(金)
17:00～18:40

岐阜県庁20階
展望ロビー

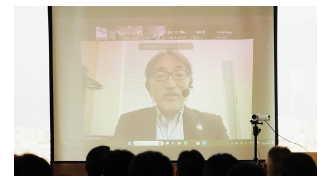
放出時間などの詳細情報は、
宇宙研究利用推進センターHP
からお知らせします。

9/19(金) 夕方に
国際宇宙ステーション (ISS)
から宇宙空間へと放出

【イベント内容】
1. 高校生による超小型人工衛星「らいちょう」の紹介
2. 国際宇宙ステーションからの人工衛星放出の紹介
3. JAXAからの高校生による放出コールの中継
4. 高校生による「らいちょう」のミッション紹介 など

イベント会場の様子をYouTubeにて同時ライブ配信！
観覧に当たらずとも大丈夫。
「らいちょう」の飛翔をYouTubeで一緒に見届けよう！！

QRコード



22

地域に根差した工学教育の展開に向けて

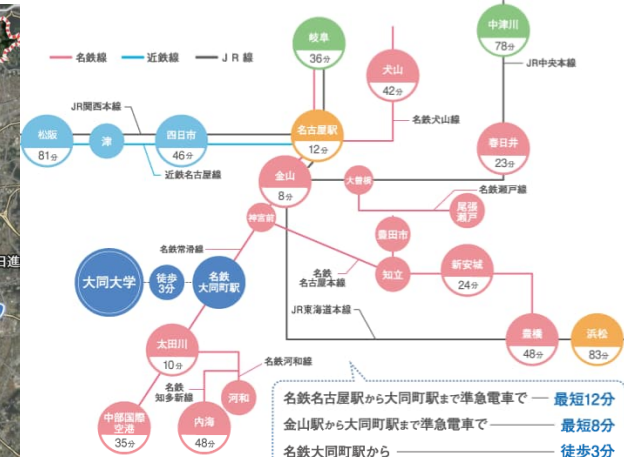
大同大学 建築学部 都市空間インフラ専攻
准教授 樋口恵一
ひと・まち・くらしデザインセンター副センター長

0

地域に根差した工学教育の展開



地図：Google Maps



※名鉄からの所要時間は乗り換え時間を含み最短の乗車時間です。

1

地域に根差した工学教育の展開



地図：Google Maps

2

大同学園の起源

学園の源流：電力の祖・福沢桃介

- 福澤 諭吉 の女婿
- 100社以上の設立に携わり
特に、電源開発、鉄道事業で活躍「電力王」と呼ばれた
- 優れた投資家、事業家であり経営者でもあった



1916年木曽川の大規模な電源開発
(株)電気製鋼所、木曽電気製鉄、**大同電力株**を設立を設立、

3

大同学園の起源

下出 民雄

(株)電気製鋼所・初代社長

1923年(大正12年) 東邦商業学校を開設

(現：東邦高校・愛知東邦大学)



下出 義雄

・下出民義氏の長男

・1939年 大同製鋼(株)4代目社長時に
「大同教育財団 大同工業学校」を設立
初代理事長に



4

大同大学の歴史

1938年11月 大同工業教育財団設立許可を文部省に申請

1939年 1月 設立認可

同年 4月 大同工業学校(5年制の甲種学校) 開校

- ・軍需一色となった時代背景：重工業技術者への人材ニーズ
- ・第2本科(夜間)では、大同製鋼(株)、三菱航空機(株)、愛知時計電機(株)などから多くの企業人が学んだ

空襲被害(1945年)、校舎全焼(1950年)、
伊勢湾台風(1959年)の被災を乗り越え・・・

5

大同大学の歴史

1961年 9月 中部産業界の強い要望があり工業短期大学の設置を申請

大同製鋼株式会社(現大同特殊鋼株式会社)

矢作製鉄株式会社

中部電力株式会社

株式会社大同機械製作所(現大同マシナリー株式会社)

名古屋鉄道株式会社

東邦瓦斯株式会社(東邦ガス株式会社)

東海製鐵株式会社(現日本製鉄株式会社名古屋製鉄所)

東亜合成化学工業株式会社(現東亜合成株式会社)

東海銀行株式会社(現株式会社三菱UFJ銀行)

株式会社松坂屋

新東工業株式会社

日本発条株式会社

富士バルブ株式会社(現フジオセックス株式会社)

東海電機製造株式会社(現東海カーボン株式会社)

岡谷鋼機株式会社

大同メタル工業株式会社

日本陶器株式会社

板井興産株式会社

片山工業株式会社

鈴秀工業株式会社

東海プライウッド株式会社

株式会社呉造船所

愛知時計電機株式会社

株式会社磯波鉄工所(現株式会社サッポライ)

日本碍子株式会社

前田鉄工所株式会社

石川島播磨重工業株式会社名古屋造船所(現株式会社IHI)

オーバル機器工業株式会社(現株式会社オーバル)

愛知マツダ株式会社

株式会社朱花製作所

株式会社高岳製作所(現株式会社東光高岳)

1962年 4月 大同工業短期大学開学：機械科1科でスタート

1963年 9月 4年制大学の設置を申請

1964年 4月 大同工業大学開学：機械工学、電気工学の2学科で発足

6

大同大学の歴史

1990年 4月 大学院開設 工学研究科修士課程を設置

1999年 3月 石井記念体育館 完成

2000年12月 滝春新キャンパス完成

2001年 4月 情報機械システム工学科、都市環境デザイン学科

2002年 4月 情報学部情報学科設置、2学部体制に

2006年 4月 工学部ロボティクス学科

2008年 4月 情報学部情報システム学科、情報デザイン学科設置

2009年 4月 「大同大学」に校名変更

2010年 4月 工学部総合機械工学科を設置

2012年 4月 情報学部総合情報学科を設置

2020年 4月 X棟竣工

2024年 4月 建築学部を開設

7

本学の背景まとめ

- ・工業を基盤とした企業が設立した大学
- ・伊勢湾台風の被災経験、地域と共に



地図：Google Maps

8

本学の背景まとめ

すべての生徒に＜汗と愛＞の経験を
 大同大学大同高等学校

大同大学
DAIDO UNIVERSITY

自分が変わる、未来を変える。

建学の精神

「社会で有為な人材の育成」

教育信条

「全ての生徒に汗と愛の経験を」

普通科、機械科、電子情報デザイン科
 生徒数1,493名、教育職員75名

建学の精神

「産業と社会の要請に応える人材の養成」

理念

「実学主義」

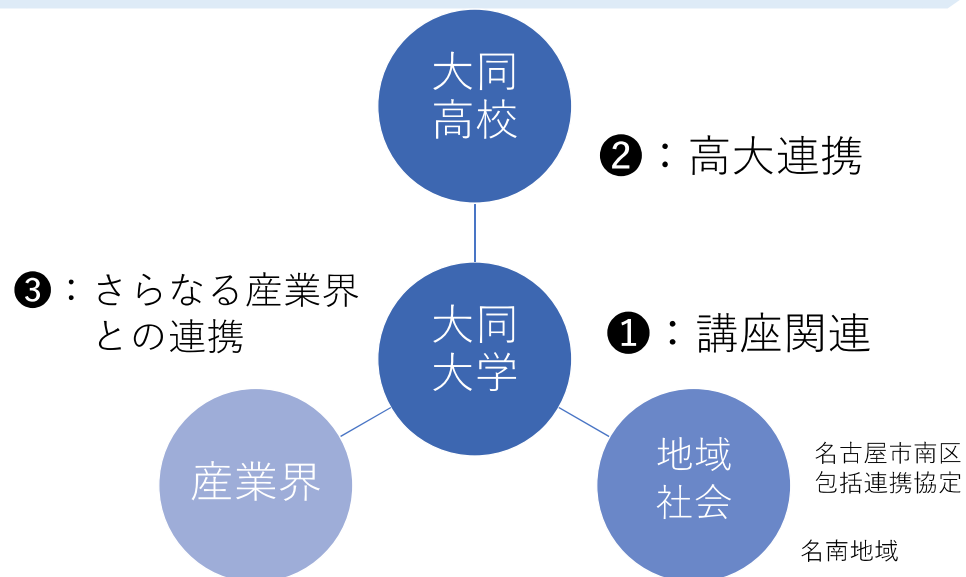
工学部、建築学部、情報学部の3学部
 学生数3,521名、教育職員110名

大学院

工学研究科、情報学研究科の2研究科 110名

9

地域に根差した工学教育の展開



10

①：講座関連

- ◆なごや健康カレッジ（名古屋市）
- ◆レッツジュニアスポーツ（名古屋市）
- ◆はつらつ長寿推進事業（名古屋市）
- ◆おおぶアカデミー（大府市）
- ◆愛西deカレッジ（愛西市）
- ◆本学主催公開講座
- ◆名古屋学院大学連携講座

◆ミラトラ（名古屋市教育委員会主催）

→本学がキャリアタイムサポーターとして登録
 →小・中学生を対象とした講座、出張授業など



①：講座関連

「ミライトラベル LAB 中学生向けキャリア教育プログラム」
(名古屋市教育委員会主催)

名古屋市長南中学校（R7協力校）：ミライ和ーク
 ➔「和」を大切にしながら、グループで取り組む
 ➔最先端技術を体験し、身近な困りごとの解決にも取り組む

①以下の中から2つの最新技術を体験する

体験内容	企業名	実施場所
ShopBot を使った 木材加工	VUILD 株式会社	木工室
動画撮影・編集	クレイジーゼロ株式会社	1 年 1 組
XR 体験・ゲーム作成	株式会社スピード	1 年 2 組
地理空間情報の取得・分析	大同大学 (都市空間インフラ)	1 日目は 1 年 3 組 2 日目は大同大学
AI の機械学習ツール	JellyWare 株式会社	1 年 4 組

- ・地理空間情報の取得方法と活用
 - GNSSの仕組み
 - スマホなどのサービス
 - 自動運転
 - ドローン

- ・地域の防災や交通安全をテーマ
- ・グループでデータ収集（GIS）
- ・プレゼン

② ①体験後に全員で体験

体験内容	企業名	実施場所
起業家体験 (身近なお困りごと解決)	株式会社ガイアックス	1年1組 ～ 1年4組

①：講座関連



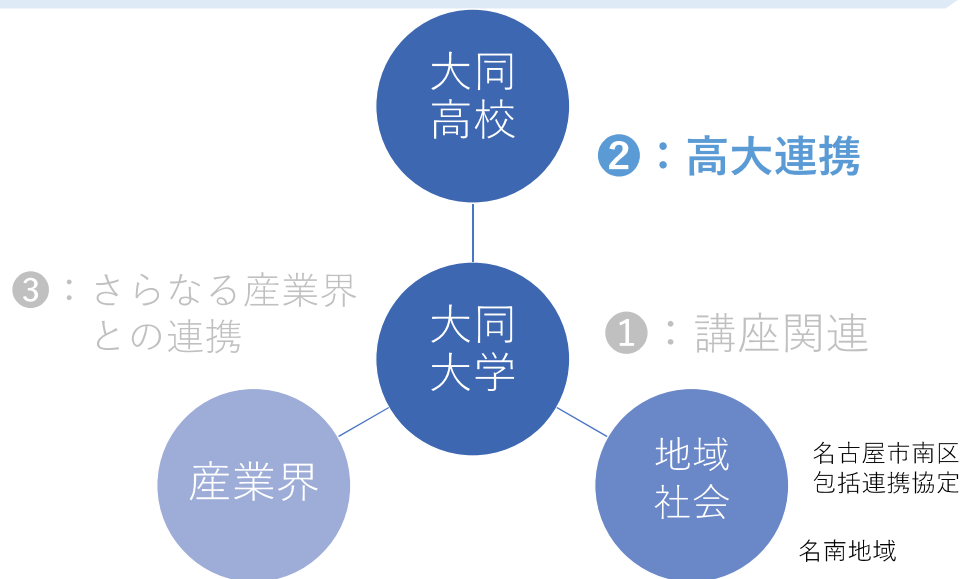
- ・大人向け公開講座を実施
- ➡子供向けが手薄

◆理工系への接続、地元のモノづくり産業の関心を高めることへの貢献を目指す

◆子供向けの体験講座
→包括協定を結んでいる南区と共同
→春休み中の中学生向けのイベント
→モノづくり講座を予定



地域に根差した工学教育の展開



②：高大連携＋地域

○高大連携探究学習

大学生の支援による探究支援

1年目：特進クラス、1クラス6グループに対して大学生が2～3名サポート
探究発表には地域の方々や、協力企業の方々も招待

地域：高齢者の生きがい活動、防災活動、商店会活性化
地元企業：循環型アスファルトの検討

大学教職員による探究支援

2 年目：特進クラスを対象に大学教員が探究支援 毎週教室に出向き探究サポート
生徒のフィールドワークにおける、**企業や外部組織との橋渡しを事務職員がサポート**（1 年生対象）

3年目：2年生対象、前期：探求学習の計画を生徒が立案、事務職員がチューターとなり
計画内容へアドバイス
後期：同じテーマなどはグループで活動、学外へ調査等へ行きた
い学生は内容を精査したのち事務職員が学外関係者へ調整
3月発表会

②：高大連携＋地域

○しばはっこプロジェクト

日本語支援ボランティア

学園近隣地域に住む、外国にルーツを持つ子ども達に向けた日本語教室

高校生と大学生および高校・大学教員の有志が参加

【参加者】大同高校1, 2年生 18名/大同大学1年生 11名 計29名

高校生、大学生が3つの混成チームを編成し、交代制で活動を展開

【開催日時】月1回（毎月第3土曜午前10:30～12:00）

○留学生交流イベント

季節型イベントの開催

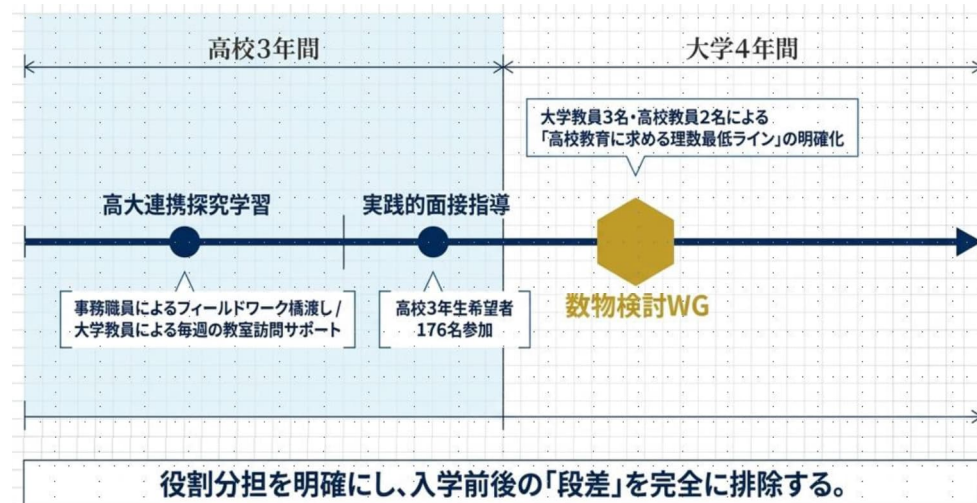
本学在学の留学生および学園近隣地域の日本語学校にも呼びかけ

高校生と大学生および高校・大学教職員の有志が参加し、企画・運営



16

②：高大連携（工学教育の接続）



ことを目指している

17

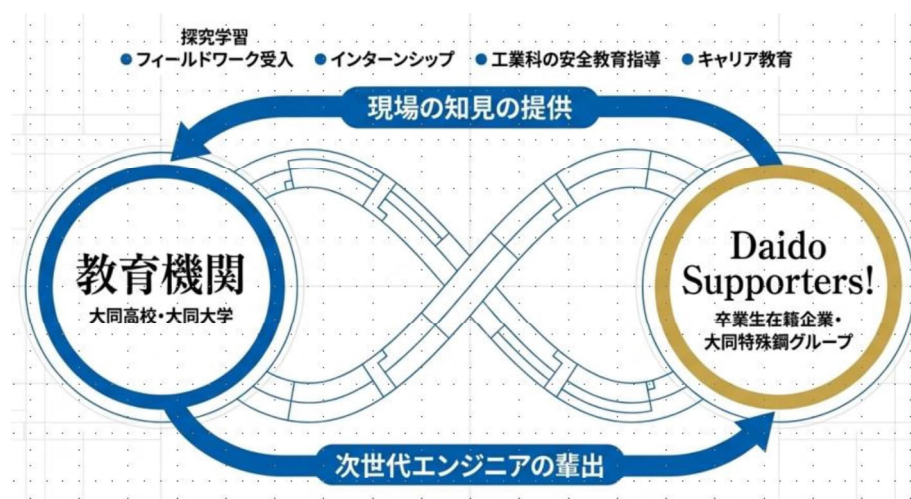
地域に根差した工学教育の展開



18

③：さらなる産業界との連携

＝地元企業（特に機電系を中心とする）



19

<本学のバックボーン（背骨）>

- 工業を基盤とした企業が設立した大学
- 伊勢湾台風の被災経験、地域と共に

- ➔ 地域連携を深めながら、理工系＝モノづくりへの興味喚起
- ➔ 安全・安心な暮らしを支援する活動
- ➔ 企業と連携した新たな工学教育へのチャレンジ
- ➔ 動き出したプロジェクトが多い＝**学内・学園の体制強化**